

肺癌の疑い「呼吸器外科」

● 確定診断

- 年齢：54歳
- 性別：男性
- 提供場所：東京都

* 肺にできる悪性腫瘍の疑い

相談内容

1ヶ月前、健康診断の胸部レントゲンにて3cmの影が見つかった。その後、気管支鏡検査で癌細胞は見られなかったが、切除を勧められている状態。手術の妥当性についてセカンドオピニオンを希望したい。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

気管支鏡検査の結果では癌細胞が認められないにもかかわらず、疑わしい影があるため手術(切除)という説明に納得ができない。主治医の対応に不安があり他の医師の意見を聞きたい。

手記の経過

呼吸器外科、総合相談医によるセカンドオピニオンの提供を決め、医師との日程調整を依頼した。

準備された身体情報

- ・胸部レントゲン
- ・MRI
- ・CT
- ・診療情報提供書

手記の結果

風邪をひき高熱を出した1週間後に受けた健診で、レントゲン上の影は肺炎の影であるとのこと。優秀専門医のもと引き続き経過を見ていくこととなった。

お客様のコメント

肺癌の診断から一転して肺炎が軽快している状況と判明し、肺炎で危なく手術する所でした。このサービスで本当に助かり大変感謝しています。

担当スタッフの感想・その他

疑わしき影に対し手術を勧められていたケースであり、セカンドオピニオンにより大変有益な結果になった事例だと思う。期待に副えた手記となった。

【専門用語の説明】

気管支鏡：口や鼻から気管の中にスコープを挿入して、気管や気管支、肺の入口を観察し、病変の部位や範囲を確認したり、組織を取るもの。

肺癌、骨盤・肝臓・骨転移「呼吸器外科」

● セカンドオピニオンによる
詳細な説明

- 年齢：55歳
- 性別：男性
- 提供場所：東京都

* 肺にできる悪性腫瘍

相談内容

腰痛を主訴に受診をしたが整形外科分野の問題ではなく、すぐに癌専門病院への紹介となった。精密検査の結果、右上葉に腫瘍が発見され(初期癌と宣告された)、同院にて切除及びリンパ節の隔清を行った。5ヶ月後に骨盤の転移が(左腸骨8センチ)発覚。2週間通院して放射線療法を行った。その後入院して、抗がん剤の投与(シスプラチン・イリノテカンの2剤投与)。1週間おいて再投与(当初は4クルの予定が効果が期待できないと2クールにて断念となる)。今後、イレッサもしくはドセタキセルを選び単体での投与を予定されている。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

今後の治療方針についてセカンドオピニオンを希望したい。骨盤、肝臓の転移についても1ヶ月半で増大傾向にある。転移に対して対症療法はないと言われているが、進行を止めるための最新治療があるとの情報も得ている。自身に適応があるのかも伺いたい。

手記の経過

癌専門病院での提供を決め、メディカルコンサルテーションの日程調整をおこなった。医療機関から化学療法について、転移についての治療の専門分野が違うため、同日に時間差で呼吸器科と消化器科の医師と調整の運びとなった。

準備された身体情報

- ・診療情報提供書
- ・MRI
- ・レントゲン

手記の結果

お客様自身はメディカルコンサルテーションを前に、病状が急変しご入院となり、妻が代理で受診となった。肝転移については動注化学療法の適応はある。しかし体力的にかなり厳しい治療になると思われる。

お客様のコメント

とても熱心に対応していただき、治療の最初からこの先生にお任せできていたらと残念に思えるほどでした。

担当スタッフの感想・その他

(お客様のアンケートより) - コールセンターの担当の方の熱心なお気持ちには感謝しています。もっと早くご相談していたらもう少し違っていたような気がして残念です。主人は冷たい、事務的な対応しかしていただけない病院で亡くなりました。病む人々のためにこれからも頑張ってくださいたいサービスだと思いました。- お客様が何を目的としたセカンドオピニオンを望んでいらっしゃるか、このように予後が厳しい疾患であればあるほど難しさを痛感している。電話での対応ではあるがどこまで歩み寄れるかお客様の満足度も変化するのかもしれない。

【専門用語の説明】

動注化学療法：下腹部に抗がん剤注入装置を埋め込み、癌組織に集中的に抗がん剤を投与できる新しい治療法。

右聴神経腫瘍「耳鼻咽喉科」

- 最適な治療方法の提案及び実施
- 優秀専門医のもとで継続治療

- 年齢：55歳
- 性別：男性
- 提供場所：東京都

* 右聴神経を包む細胞から発生する腫瘍

相談内容

2、3年前から時々、右手のしびれを自覚していた。

最近になって、右の顔面の違和感・知覚の鈍麻・時々呂律が回りにくくなってきた。総合病院脳神経外科など複数に受診し、MRIにて直径3cmの右聴神経腫瘍と診断され、このままだと余命2年なので、手術あるいはガンマナイフでの治療を勧められた。手術の場合は大変リスクがあり術後に顔面神経の麻痺など後遺症が残ると言われ、不安が強まってセカンドオピニオンを受けたいと思うようになった。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

仕事上(会社役員)、顔に麻痺や後遺症が残っては困る。

いい先生、専門性の高い医師のもとで安心して治療を受けたい。他の選択肢があれば伺いたい。

手配の経過

脳神経外科医による提供を決め、医師との日程調整を依頼した。

準備された身体情報

MRI

手配の結果

右聴神経腫瘍の治療についての説明と、優秀専門医の紹介(大学病院の脳神経外科医)となった。

お客様のコメント

聴神経腫瘍を専門とする先生の紹介があり、治療を安心して受けることができることになってよかった。

担当スタッフの感想・その他

総合相談医から難しい聴神経腫瘍の実績がある専門医(日本人で2人)の紹介により、本人も満足され、安心して治療を受けられることになってよかった。後日、「名医の手術で顔面麻痺が残らなかった」と大変満足なされた旨、お礼の連絡があった。

【専門用語の説明】

ガンマナイフ：弱い放射線を一点に集中させることにより、効果を発揮する放射線治療の一種。治療装置内部に半球状に並んだ201個の放射線源から出るガンマ線を一点に集中して照射することで、病変を破壊し、治療する。

胆嚢癌・肺転移疑い「消化器外科」

- 最適な治療方法の提案及び実施

- 年齢：65歳
- 性別：女性
- 提供場所：東京都

* 胆嚢にできる悪性腫瘍

相談内容

半月前より激しい右上腹部痛と食事摂取が困難になり、精密検査のために入院となった。胆嚢癌、肝転移も疑われ、カンファレンスの結果、入院先の病院では技術的に手術は難しく、癌の専門病院なら手術が可能かもしれないと言われ、転院を勧められている。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

相談者は息子。

最善の治療を受けさせたいので、このサービスを受けたい。できれば手術を早く受けさせたいので、手配を急いでほしい。

手配の経過

消化器外科の総合相談医によるメディカルコンサルテーションの日程調整をおこなった。

準備された身体情報

- ・ CT
- ・ MRI
- ・ 診療情報提供書

手配の結果

メディカルコンサルテーション後、優秀専門医のいる医療機関に精査入院となり、手術はできないと診断された。その後、緩和ケア科、ホスピス、免疫療法などを行っている病院情報を提供した。

お客様のコメント

結果的には手術はできない状態だったが、母は専門性の高い病院へ入院できたことに満足していました。残念ながら亡くなったが、いろいろ手配してくれてありがとう。

担当スタッフの感想・その他

診断から入院、転院とご家族の不安や動揺も強く感じられ、サービスとしてお客様の意向にできるだけ沿えるよう配慮した。退院後、訃報の報告を受け非常に残念な結末であったが、ご家族や患者様自身も入院や手配に満足しているとのコメントをいただき、改めてサービスの提供ができたことをうれしく感じた。

【専門用語の説明】

カンファレンス：事例検討会。

サービス提供事例

悪性リンパ腫「血液内科」

- セカンドオピニオンによる
詳細な説明
- 主治医による継続治療

- 年 齢：63歳
- 性 別：男性
- 提供場所：東京都

*リンパ節あるいはリンパ組織（胸腺・扁桃・脾臓等）に生じた腫瘍

相談内容

発症から15年、現在の治療スタイルが妥当であるのか今後の治療方針について、専門性の高い医師と相談したい。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

昨年から大腿のリンパ節に腫瘍を認め（2センチ大）、不安を覚えての入電であった。抗がん剤の治療をしていながらも、お客様にはっきりとした告知はされていないのがよく分かる内容であった。（病名すら理解していなかった。）

数日後連絡が入り、今までは息子2人が自分のことを思い告知は行われていなかったことを知った。自分の体でもあるし、今後の仕事もある。自分でもよく病気のことを理解していきたい。

手記の経過

血液内科の総合相談医による提供を決め、日程調整をおこなった。

準備された身体情報

- ・診療情報提供書
- ・血液データ

手記の結果

現在通院中の医師が非常によい治療をしており治療経験も豊かなようだ。継続していった問題ない。不必要に体を鍛えることは避けたほうがよい。

お客様のコメント

病態から治療方針まで詳しく話しが聞けました。心の中のわだかまりが今回のことを機に払拭されました。主治医のもとで今後も治療を続けていきます。

担当スタッフの感想・その他

病名の告知がされないまま辛い治療を受け、常に自分の病気はいついかなんだという思いで過ごしてこられたことが、初回の電話ではっきりと分かった。このサービスを機に主治医、ご家族で再度話し合いが持たれ、結果告知をした上でセカンドオピニオンの提供となった。そういった背景もふまえた上で総合相談医のご配慮があり、非常に満足度の高い結果で終わった。

肺炎(KL-6の高値を伴う)「膠原病科」

- 確定診断
- 優秀専門医のもとで
継続治療

- 年 齢：68歳
- 性 別：女性
- 提供場所：東京都

*肺の奥の肺泡領域に起こる炎症

相談内容

1ヶ月前より軽い咳嗽・喀痰あり、総合病院受診。

CT・血液検査・喀痰検査を行うが原因がはっきりせず、血液データではKL-6が2760と高値。

今後内視鏡検査を行い、それでも原因がはっきりしなければ開胸手術と説明されている。

原因もはっきりしないまま手術することに不安がある。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

説明も不十分で主治医に不信感を持っている。原因がわからないまま手術するのは不安なので、セカンドオピニオンを受けたい。

手記の経過

KL-6が高値ということで間質性肺炎(本人には告げられていなかった)の疑いが強いので、膠原病に詳しい内科の総合相談医に相談した上で日程調整をおこなった。

準備された身体情報

- ・診療情報提供書
- ・レントゲン
- ・血液データ
- ・CT

手記の結果

検査の結果、シェーグレン症候群に伴う間質性肺炎と診断された。総合相談医のもとで治療となる。

お客様のコメント

名医の先生を紹介頂き、また原因が分かり本当にありがとうございました。

担当スタッフの感想・その他

メディカルコンサルテーションによって原因疾患がわかり、開胸手術をせずに済み、大変により結果となった。

【専門用語の説明】

KL6：間質性肺炎の診断と活動性の評価が行える検査。

シェーグレン症候群：自己免疫疾患（膠原病）の一つで、主に唾液腺や涙腺などの外分泌腺が慢性炎症を起こす病気。

発作性上室性頻拍(PSVT)「循環器科」

●セカンドオピニオンによる
詳細な説明

●年 齢：6歳
●性 別：男児
●提供場所：東京都

*突発性に始まって終わる、1分間あたり160~200回の速く規則的な心拍動(頻脈)。激しい動悸と胸苦しさを伴う

相談内容

3才の頃より動悸を自覚するようになった。心電図上、PSVTと診断され、その後の負荷心電図・心エコー・胸部レントゲンで心疾患は否定的と言われた。1ヶ月に多い時で1~2回の頻脈発作があり、ないと数ヶ月症状が出ないこともこともある。バルサルバ法を試みても効果が得られないこともあり、長い時は発作時間が数時間に及ぶ。特に運動負荷とは関連ない様子。頻脈が止まらない時、救急病院で「子供の発作はよく分からない。」と治療してもらえない不安もある。今度の治療方針について、セカンドオピニオンを希望している。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

医師によって薬物療法を取り入れていった方がよいという意見と、経過観察とで意見が分かれる。
小児専門の循環器の医師と相談したい。

手配の経過

小児循環器が専門の総合相談医へセカンドオピニオンを依頼。

準備された身体情報

・診療情報提供書
・心電図
・胸部レントゲン
・心エコー

手配の結果

典型的なPSVTであり、心臓に問題はない。薬物療法はもう少し経過をみた方がよい。
迷走神経刺激操作を指導する。

お客様のコメント

専門的に非常に分かりやすく説明していただき、また緊急時受診できる病院情報もいただき、安心できました。

担当スタッフの感想・その他

相談者の疾患と総合相談医との専門性が一致し、非常に満足度の高い結果となった。また、「先生の話に、主人も私も癒されました。」とのコメントが印象的であった。疾患の説明だけでなく、3才の頃から子供の疾患と向き合ってきた両親へも配慮してくださった先生のお人柄が、より満足度を高いものにしたと感じた。

【専門用語の説明】

バルサルバ法(操作)：迷走神経の緊張を高める処置のひとつで、深吸気時の息こらえ。治療効果が得られることもあるので、薬剤投与前に試してみるとよいとされている。迷走神経の緊張を高める方法としては他に頸動脈洞マッサージや眼球圧迫などがある。

運動負荷：運動によってかかる心臓への負担。

変形性脊椎症、腰部脊柱管狭窄症「整形外科」 「脳神経外科」

●最適な治療

●年 齢：61歳
●性 別：男性
●提供場所：東京都

*変形性脊椎症：主に加齢による背骨の変化

腰部脊柱管狭窄症：加齢やヘルニア、外傷などの原因で腰椎の脊柱管が狭くなり、その中に含まれている脊髄、馬尾、神経根が慢性的に絞扼されて神経症状が生じるもの

相談内容

以前より、腰痛・ヘルニアあり。今年3月に前立腺肥大の手術のため入院。その頃より腰痛が強くなり、精査を勧められ大学病院に検査入院。上記確定診断がつくが、手術療法しか治療がないと言われた。術後の社会復帰(1年は必要)のこともあり、手術は見合わせている。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

・手術しか治療がないと言われたが、侵襲も大きく、治療後の経過も長いのでためらっている(社会復帰までに1年くらい必要)。本当に手術しか選択がないか。
・手術療法で他の治療法(レーザー治療・内視鏡)の選択がないか。

手配の経過

内視鏡治療実施機関、その他の紹介も考慮し脳神経外科の医師による提供を決め、提携医療機関へ医師との日程調整を依頼した。

準備された身体情報

・CT
・MRI
・診療情報提供書

手配の結果

病歴聴取、診察、治療方針の説明→内視鏡治療実施機関への紹介、手術

お客様のコメント

優秀な専門医をご紹介頂き、当初1年と言われていた治療期間が、2週間ですっかりよくなり、足も挙上できるようになりました。とても親身になっていただき、本当に感謝しています。おかげさまで仕事に復帰できました。

担当スタッフの感想・その他

侵襲が少なく、社会復帰の期間短縮と症状の改善により、お客様の生活の質の向上があり、提供してとてもよかった。それだけでなく、医療費の削減効果にもつながったと思われる。お客様の満足度がとても高いケースであった。

【専門用語の説明】

整形外科におけるレーザー治療：MRI(磁気共鳴断層撮影)で椎間板ヘルニアが神経を圧迫している部を映しながら、ヘルニアを焼き切る治療。

サービス提供事例

多発性脱毛症⇒汎発性禿髪症「形成外科」

●確定診断

- 年齢：29歳
- 性別：女性
- 提供場所：東京都

*汎発性禿髪症(はんぱつせいとかはつしょう)：多発性を繰り返す脱毛症。再発を繰り返すのも特徴

相談内容

6ヶ月前(妊娠7ヶ月時)に美容院にてパーマとヘアカラーをしたところ、2~3日後から脱毛し、産後は頭髪全部が抜けてしまった。現在は前髪と頭頂部の脱毛が続いており、全体の1/2がない状態。

パーマ液・ヘアカラーが頭皮に付着した箇所の脱毛であるが、皮膚科に相談してもヘアカラーとの因果関係はわからないとのこと。大学病院や他2ヶ所の皮膚科に受診し、血行促進剤などを塗布したが、症状の改善が見られないためセカンドオピニオン希望したい。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

頭髪の全体の1/2が脱毛している状況を、なんとか早期に治療できないか。

手配の経過

形成外科、総合相談医によるセカンドオピニオンの提供を決め、日程調整を依頼した。

準備された身体情報

・診療情報提供書

手配の結果

セカンドオピニオン後に血液・組織検査を行い、汎発性禿髪症と診断。約6~8ヶ月で全治可能と説明される。

お客様のコメント

専門医であったため、納得のいく説明をしていただくことができて、ありがたく思っています。

担当スタッフの感想・その他

3ヶ所の皮膚科に受診をしていたが、明確な返答がなく不安に思われていた症例。

面談後に総合相談医のもとで血液・組織検査が行われ、その上で全治までの期間を提示されたことは、大きな安心につながった。お客様の期待に応えられた手配であった。

外傷後の瘢痕「形成外科」

- 最適な治療方法の提案
- 優秀専門医のもとで継続治療

- 年齢：8歳
- 性別：男児
- 提供場所：東京都

*瘢痕：熱傷・外傷を受けた部位がふさがった後に残る傷あと

相談内容 (お父様より息子の相談)

友人が暴れた際に顔を引っかかれ、左頬に幅4mm・長さ3cmと鼻にも外傷を負い、近医の整形外科で消毒した。

その後、膨隆した瘢痕となったため、大学病院形成外科を受診するが、日焼けを避けるなどの日常生活の指導のみで、特に治療はされなかった。

本人の意向 - サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 -

息子の顔に一生傷が残るのは悔やまれるので、最善の治療を受けさせたい。

手配の経過

形成外科の総合相談医による提供を決め、日程調整をおこなった。

準備された身体情報

・受傷後5日目の創部の写真

手配の結果

総合相談医のもとで治療が行われることとなった。圧迫治療を開始(数ヶ月)、色素沈着が残ってもレーザーで治療可能。全治可能とのこと。

お客様のコメント

先生のもとで治せる傷であることがわかり、このサービスを利用してよかったです。

担当スタッフの感想・その他

入電から面談まで4日でできたケース。中間報告での経過も良好で、瘢痕自体はほぼ平坦になっているとのこと。

傷も驚くほどきれいに治って、大変感謝しているというお客様からのコメントを総合相談医からも伺い、お客様の満足度が非常に高く、スタッフとしてもうれしいケースであった。

成人T細胞性白血病 (ATL) キャリア

「血液内科」

- 確定診断
- 優秀専門医のもとで継続治療

- 年齢：54歳
- 性別：女性
- 提供場所：東京都

*レトロウイルス属のHTLV-Iというウイルスの感染による疾病。日本の西南部に患者が多く、風土病にとらえられることもある

相談内容

今年4月に総合病院で婦人科の手術を受けた。手術前検査でATLのキャリアであるということで(本人は10年前の健診ですでに知っていた)、血液内科受診をすすめられた。血液内科担当医から「くすぶり型」と診断を受け、「いつ発症してもおかしくない。発症すれば治療法はない。」と言われ、不安になった。

以前の健診医からは「発症は少ないので心配ない。家族の感染も調べる必要はない」と説明されていた。不安で次々と質問したが、「この病気は関東には少なく、私も専門医でないのでわからない。」と肝心なことになると詳細な説明が受けられない状況が続いている。

本人の意向

— サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 —

主治医が頼りない。肝心なことになると(「くすぶり型」と判断される根拠や母乳で育てた2人の息子に検査を受けさせるかなど)、回答が得られないことに不満。専門医がいれば医師を代えてもいいと思っているので、検査結果はすべて揃える意向。

手記の経過

血液内科総合相談医に依頼してみたところ、「こちらではめずらしい疾患だが、数例の経験はあるのでお引き受けしましょう。」と快く承諾を得た。先生から「私も納得して臨みたいので、情報を先にください。」と希望があったため、通常の情報に加えて相談者が医師に尋ねたいと話していたことを箇条書きにしてまとめ、事前にFAXでお知らせした。

準備された身体情報

・血液データ

手記の結果

総合相談医より「主治医のおおげさな説明が不安を煽いだ模様。検査データよりくすぶり型は否定された。」と報告があった。

お客様のコメント

私が不安に思っていたことのすべてにお答えしていただき、安心できました。今後は先生に継続して診ていただくことにしました。

担当スタッフの感想・その他

私自身がこの疾病の多い地域の出身であったため、相談者の不安な気持ちを理解することができた。関東には専門性の高い医師が少ないことも含めて、相談の初めから理解を得ていたことと、医師が誠実に相談者の不安と向かい合ってくくださったことで、大変に満足の高いセカンドオピニオンとなり得た。

【専門用語の説明】

キャリア：持続感染者、保因者。くすぶり型：ATL進展の初期段階で、5%以上の異常リンパ球が見られる。

ステロイド離脱症状 ⇒関節リウマチ・シェーグレン症候群

「膠原病科」

- 確定診断
- 優秀専門医のもとで継続治療

- 年齢：54歳
- 性別：女性
- 提供場所：東京都

*ステロイド剤の多量投与後の急激な中止や減量による、強い倦怠感、関節痛、嘔気等の症状や、もともと治療すべき病気の悪化

相談内容

エコノミー症候群・肺炎に罹患。抗生剤投与で効果がないため入院し、ステロイドの大量投与による治療を行った。退院後、関節痛・筋肉の強い張り感が出現。主治医よりリウマチ膠原病科紹介され受診するが異常なし。「ステロイド離脱症候群のための症状であろう。整形外科的にも内科的にも異常がないので様子を見ましょう。」と言われた。しかし半年経過した今でも症状が続いている。

本人の意向

— サービスを受けようとした動機・求める期待や要望 —

半年過ぎても、関節痛・筋肉の強い張り感が続いている。主治医からは「様子を見ましょう」と言われるだけで、十分な説明もなく不安をもっている。ステロイド離脱症候群についての説明と、今後このまま経過観察するだけで本当によいのか、専門の先生から話を聞きたい。

手記の経過

内科の総合相談医にまずは症状を報告し、提供が可能であるか相談をした上で日程調整をおこなった。

準備された身体情報

・診療情報提供書
・レントゲン
・血液データ

手記の結果

ステロイド剤の離脱による症状ではなく、関節リウマチまたはシェーグレン症候群の初期症状が疑われるため、今後も総合相談医にフォローとなった。眼科については優秀専門医紹介となる。

お客様のコメント

膠原病疑いと言うことで、今後も総合相談医に診てもらえることになりました。お話をよく聞いて頂き、よかったです。半年間も誤診を受け、大変辛かったのですが救われました。本当にありがとうございました。

担当スタッフの感想・その他

何科が適切であるのか悩んだケースだったが、総合相談医により診断そのものが違うという結果となった。今後適切な治療が受けられることで、利用者からも非常に感謝された。

【専門用語の説明】

シェーグレン症候群：自己免疫疾患（膠原病）の一つで、主に唾液腺や涙腺などの外分泌腺が慢性炎症を起こす病気。

関節リウマチ：自己免疫疾患（膠原病）の一つで、関節の炎症と痛みが次第に全身に広がり、進行すると変形して身体障害がでる病気。